



参考：外務省「対インド国別援助計画」、日本貿易振興機構（JETRO）「インド経済の基礎知識」、ほか

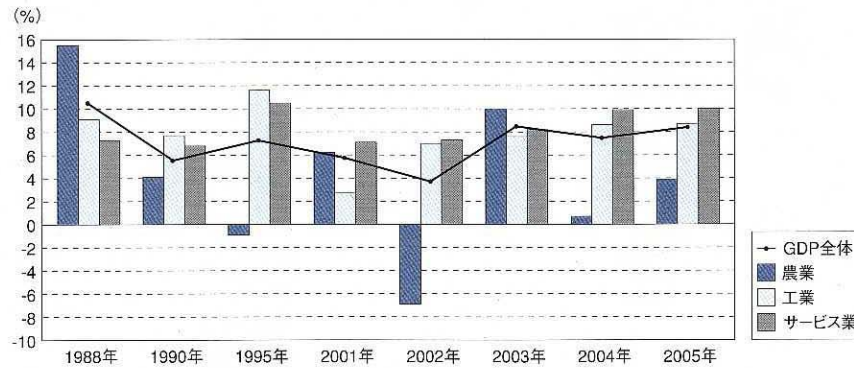
B

成長するインド、世界との関係

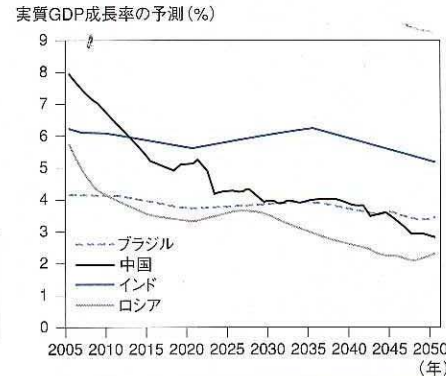
DATA

出典：Goldman Sachs「Dreaming With BRICs: The Path to 2050」、日本貿易振興機構（JETRO）「貿易統計データベース」、インド財務省「Economic Survey 2005-2006」、ほか

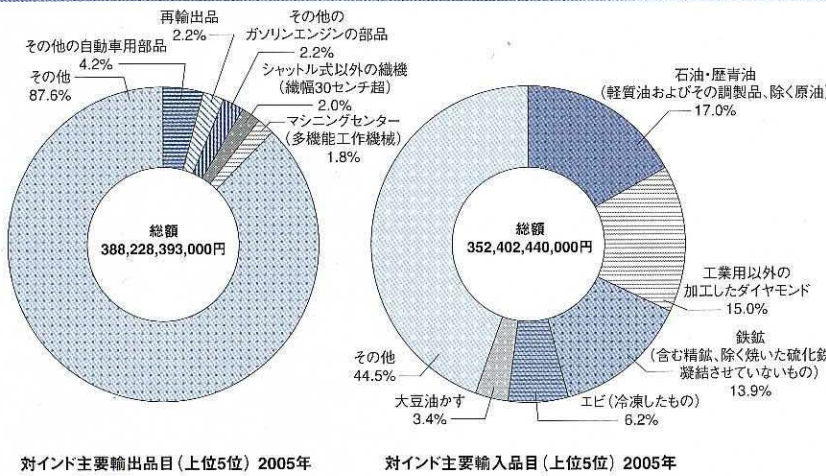
グラフ1 分業別GDP成長率(1988~2005年)



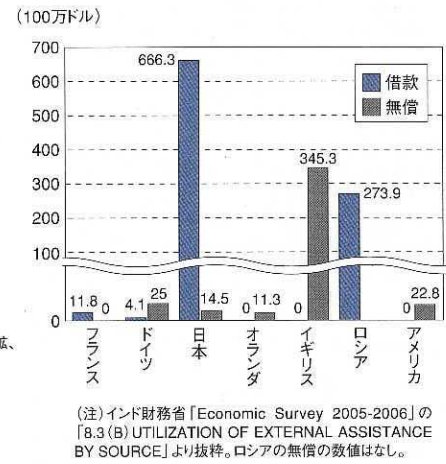
グラフ2 BRICsをリードするインド



グラフ3 日印貿易



グラフ4 主な国の対インド協力(2004~2005年)



日本はインドのトップドナー

グラフ1は、インドの国内総生産（GDP）成長率を分業別に示している。アジア開発銀行のデータによると、インドのGDPの分業別内訳（2005年）は、農業が19%、工業が27.4%、サービス業が53.6%となっている。近年の8%を超える全体の成長を牽引しているのは、サービス業に含まれるITソフトウェア関連だ。政府が人材育成に力を入れてきたこともあり、優秀なインド人技術者が世界中で活躍している。この成長は今後も続くと思われる。03年10月に

発表されたゴールドマン・サックスのBRICsレポートは、インドがほかの経済新興国をリードすると予測した。日印貿易はどうか。主な品目はグラフ3の通りだが、輸出・輸入とも総額は日本の全貿易額の0.6%（05年）と、インドとの経済的な取引はわずかだ。一方、二国間援助については、日本はインドのトップドナーであり、インドは円借款の最大の供与対象国である。今、世界最大の民主主義国家インドで、購買力のある中間層が拡大しており、日本のビジネス界も関心を寄せている。

A

11億人のインド

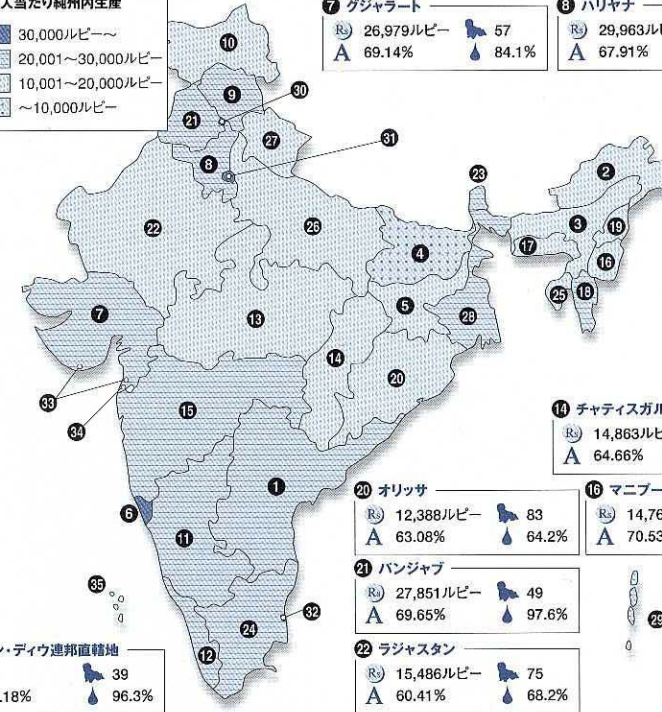
DATA

出典：インド財務省「Economic Survey 2005-2006」、世界銀行ウェブサイト（http://www.worldbank.org）、国連人口基金「STATE OF WORLD POPULATION 2006」

インドの主要指標

人口(2006年): 11億1,950万人
 1日1ドル未満人口(2000年): 35%
 出生率(2004年): 3
 出生時平均余命(1998-2002年): 63歳
 初等学校就学率(2004年): 87%
 1人当たり純州内生産(2003-04年)
 A 7歳以上の識字率(2001年)
 乳児死亡率(1,000人当たり、2003年)
 安全な水にアクセスできる率(2001年)
 (注) 1ルピー=約2.6円(2006年12月現在)

1人当たり純州内生産
 30,000ルピー~
 20,001~30,000ルピー
 10,001~20,000ルピー
 ~10,000ルピー



25 ウットル・プラデシュ
 R) 10,817ルピー 78
 A 56.27% 87.8%

27 ウットランチャル
 R) 13,260ルピー(01-02年) 41
 A 71.62% 86.7%

28 西ベンガル
 R) 20,896ルピー 46
 A 68.64% 88.5%

29 アンダマン・ニコバル連邦直轄地
 R) 28,340ルピー(02-03年) 18
 A 81.3% 76.7%

30 チャンディガル連邦直轄地
 R) 57,621ルピー 19
 A 81.94% 99.8%

31 デリ首都圏
 R) 51,664ルピー 28
 A 81.67% 97.2%

32 ボンディシェリ連邦直轄地
 R) 50,936ルピー 24
 A 81.24% 95.9%

34 ダドラおよびナガル・アベリ連邦直轄地
 R) - 54
 A 57.63% 77%

1 アーンドラ・プラデシュ
 R) 20,757ルピー 59
 A 60.47% 80.1%

4 ビハール
 R) 5,780ルピー 60
 A 47% 86.6%

25 ウットル・プラデシュ
 R) 10,817ルピー 78
 A 56.27% 87.8%

27 ウットランチャル
 R) 13,260ルピー(01-02年) 41
 A 71.62% 86.7%

28 西ベンガル
 R) 20,896ルピー 46
 A 68.64% 88.5%

29 アンダマン・ニコバル連邦直轄地
 R) 28,340ルピー(02-03年) 18
 A 81.3% 76.7%

30 チャンディガル連邦直轄地
 R) 57,621ルピー 19
 A 81.94% 99.8%

31 デリ首都圏
 R) 51,664ルピー 28
 A 81.67% 97.2%

32 ボンディシェリ連邦直轄地
 R) 50,936ルピー 24
 A 81.24% 95.9%

34 ダドラおよびナガル・アベリ連邦直轄地
 R) - 54
 A 57.63% 77%

2 アルナチャル・プラデシュ
 R) 17,393ルピー 59
 A 54.34% 77.5%

5 ジャルカンド
 R) 12,509ルピー 51
 A 53.56% 42.6%

26 西ベンガル
 R) 20,896ルピー 46
 A 68.64% 88.5%

29 アンダマン・ニコバル連邦直轄地
 R) 28,340ルピー(02-03年) 18
 A 81.3% 76.7%

30 チャンディガル連邦直轄地
 R) 57,621ルピー 19
 A 81.94% 99.8%

31 デリ首都圏
 R) 51,664ルピー 28
 A 81.67% 97.2%

32 ボンディシェリ連邦直轄地
 R) 50,936ルピー 24
 A 81.24% 95.9%

34 ダドラおよびナガル・アベリ連邦直轄地
 R) - 54
 A 57.63% 77%

35 ラクシャトウィープ連邦直轄地
 R) - 26
 A 86.66% 4.6%

23 シッキム
 R) 21,586ルピー 33
 A 68.81% 70.7%

24 タミルナドゥ
 R) 23,358ルピー 41
 A 73.45% 85.6%

25 トリプラ
 R) 18,676ルピー(02-03年) 35
 A 73.19% 52.5%

3 アッサム
 R) 13,139ルピー 67
 A 63.25% 58.8%

6 ゴア
 R) 53,092ルピー(02-03年) 16
 A 82.01% 70.1%

26 西ベンガル
 R) 20,896ルピー 46
 A 68.64% 88.5%

29 アンダマン・ニコバル連邦直轄地
 R) 28,340ルピー(02-03年) 18
 A 81.3% 76.7%

30 チャンディガル連邦直轄地
 R) 57,621ルピー 19
 A 81.94% 99.8%

31 デリ首都圏
 R) 51,664ルピー 28
 A 81.67% 97.2%

32 ボンディシェリ連邦直轄地
 R) 50,936ルピー 24
 A 81.24% 95.9%

34 ダドラおよびナガル・アベリ連邦直轄地
 R) - 54
 A 57.63% 77%

35 ラクシャトウィープ連邦直轄地
 R) - 26
 A 86.66% 4.6%

23 シッキム
 R) 21,586ルピー 33
 A 68.81% 70.7%

24 タミルナドゥ
 R) 23,358ルピー 41
 A 73.45% 85.6%

25 トリプラ
 R) 18,676ルピー(02-03年) 35
 A 73.19% 52.5%

7 グジャラート
 R) 26,979ルピー 57
 A 69.14% 84.1%

8 ハリヤナ
 R) 29,963ルピー 59
 A 67.91% 86.1%

26 西ベンガル
 R) 20,896ルピー 46
 A 68.64% 88.5%

29 アンダマン・ニコバル連邦直轄地
 R) 28,340ルピー(02-03年) 18
 A 81.3% 76.7%

30 チャンディガル連邦直轄地
 R) 57,621ルピー 19
 A 81.94% 99.8%

31 デリ首都圏
 R) 51,664ルピー 28
 A 81.67% 97.2%

32 ボンディシェリ連邦直轄地
 R) 50,936ルピー 24
 A 81.24% 95.9%

34 ダドラおよびナガル・アベリ連邦直轄地
 R) - 54
 A 57.63% 77%

35 ラクシャトウィープ連邦直轄地
 R) - 26
 A 86.66% 4.6%

23 シッキム
 R) 21,586ルピー 33
 A 68.81% 70.7%

24 タミルナドゥ
 R) 23,358ルピー 41
 A 73.45% 85.6%

25 トリプラ
 R) 18,676ルピー(02-03年) 35
 A 73.19% 52.5%

9 KERALA
 R) 24,492ルピー 11
 A 90.86% 23.4%

10 ジャンム・カシミール
 R) 13,320ルピー(01-02年) 44
 A 55.52% 65.2%

26 西ベンガル
 R) 20,896ルピー 46
 A 68.64% 88.5%

29 アンダマン・ニコバル連邦直轄地
 R) 28,340ルピー(02-03年) 18
 A 81.3% 76.7%

30 チャンディガル連邦直轄地
 R) 57,621ルピー 19
 A 81.94% 99.8%

31 デリ首都圏
 R) 51,664ルピー 28
 A 81.67% 97.2%

32 ボンディシェリ連邦直轄地
 R) 50,936ルピー 24
 A 81.24% 95.9%

34 ダドラおよびナガル・アベリ連邦直轄地
 R) - 54
 A 57.63% 77%

35 ラクシャトウィープ連邦直轄地
 R) - 26
 A 86.66% 4.6%

23 シッキム
 R) 21,586ルピー 33
 A 68.81% 70.7%

24 タミルナドゥ
 R) 23,358ルピー 41
 A 73.45% 85.6%

25 トリプラ
 R) 18,676ルピー(02-03年) 35
 A 73.19% 52.5%

11 カルナタカ
 R) 21,696ルピー 52
 A 66.64% 84.6%

12 ケララ
 R) 24,492ルピー 11
 A 90.86% 23.4%

26 西ベンガル
 R) 20,896ルピー 46
 A 68.64% 88.5%

29 アンダマン・ニコバル連邦直轄地
 R) 28,340ルピー(02-03年) 18
 A 81.3% 76.7%

30 チャンディガル連邦直轄地
 R) 57,621ルピー 19
 A 81.94% 99.8%

31 デリ首都圏
 R) 51,664ルピー 28
 A 81.67% 97.2%

32 ボンディシェリ連邦直轄地
 R) 50,936ルピー 24
 A 81.24% 95.9%

34 ダドラおよびナガル・アベリ連邦直轄地
 R) - 54
 A 57.63% 77%

35 ラクシャトウィープ連邦直轄地
 R) - 26
 A 86.66% 4.6%

23 シッキム
 R) 21,586ルピー 33
 A 68.81% 70.7%

24 タミルナドゥ
 R) 23,358ルピー 41
 A 73.45% 85.6%

25 トリプラ
 R) 18,676ルピー(02-03年) 35
 A 73.19% 52.5%

世界の貧困人口の3分の1を占めるインド
 インドの人口は、2006年の推計でおよそ11億人。2030年には中国を追い抜き、世界最大になるといわれている。かつて、人口が多いことは貧困問題にとってマイナス要因といわれてきたが、成長軌道にあるインドにおいては、若年層の割合が多いインドの人口増加は、むしろ有利という見方が出ている。インドの貧困人口比率は、国全体の成長の影響を受けて減少傾向にある。しかし、それでも国民の35%が世界銀行の定義する貧困の状態にあり、それは世界全体の貧困者の3分の1に相当する。近年、経済成長面ばかりがクローズアップされがちだが、地域間格差は依然深刻だ。1人当たり純州内生産を見ると、一番低いビハール州と最も高いチャンディガル連邦直轄地では、10倍もの差がついている。格差は、識字率や乳児死亡率などを取っても顕著な違いが見られる。日本をはじめとする国際社会がインドの貧困問題の解決に取り組むことは、ミレニアム開発目標（MDGs）を達成する上でも重要だ。